

## 令和7年度第1回一関市総合計画審議会 会議録

- 1 会議名 令和7年度第1回一関市総合計画審議会
- 2 開催日時 令和7年4月25日（金） 午前10時から正午まで
- 3 開催場所 一関市役所 2階 大会議室B
- 4 出席者
  - (1) 委員 阿部利彦委員、泉賢司委員、伊藤拓也委員、岩渕一司委員、宇津野泉委員、大内早智子委員、菊池正人委員、小岩邦弘委員、齊藤裕美委員、佐々木承子委員、佐藤ひかる委員、東海林訓委員、菅原美津代委員、千葉真美子委員、徳谷喜久子委員、藤本千二委員、船山賢治委員、星義弘委員、吉田捺委員、吉田正弘委員  
※欠席者 及川恵理子委員、小野寺忍委員、小山亜希子委員、加藤沙央里委員、西條恵美子委員、千田久美子委員、千田好記委員
  - (2) 事務局 今野薫市長公室長、飯村昌弘市長公室次長兼政策企画課長、佐々木さやか政策企画課主任主査、渡辺苑子政策企画課主任主事、谷藤義拓政策企画課主任主事
  - (3) 一関市総合計画策定支援業務受託者 株式会社邑計画事務所 及川一輝取締役

### 5 議題

- (1) ワークショップについて
- (2) 次期総合計画前期基本計画における施策の方向性について

### 6 公開、非公開の別 公開

### 7 傍聴者の数 1人（うち報道機関 1社）

### 8 小岩会長挨拶

2人の新しい委員を迎え、これまで以上に様々な意見が出ることを期待している。

本日は「次期総合計画前期基本計画における施策の方向性について」を主な議題として進めていくので、忌憚のない意見をお願いしたい。

### 9 議題

- (1) ワークショップについて

事務局から資料No.2に基づき説明を行った。

会長 審議会としてのワークショップは行わず、既存のデータ及び今後行われるワークショップを活用して現状の把握を行うという内容の説明であったが、この方向性で進めることとしてよろしいか。

（委員から賛同の声あり）

会 長 それでは事務局から提案があった内容で進めることとする。

(2) 次期総合計画前期基本計画における施策の方向性について

事務局から資料No.1に基づき説明を行った。以下、質疑応答等。

委 員 確認の視点は資料5ページに示されているが、6ページから29ページまで全部を確認するのは委員も大変であるし、事務局で意見をまとめるのも大変だと思う。項目を絞って検討してはどうか。

6ページ「結婚と出産の支援」の課題に、「偏りのない情報」という言葉があるが、分かりにくいので修正が必要と考える。現状や課題の中に分かりにくい言葉があると、目指す姿も伝わらなくなってしまう。

会 長 所属する団体に関する内容など、それぞれに得意な分野があると思うので、得意な分野を中心にご意見をいただきたい。

また、本日の会議では意見をまとめる作業は行わない。意見をたくさん出していただいて、次回の審議会事務局がまとめたものをお示しする。

委 員 6ページ「結婚と出産の支援」について、人口減少に歯止めをかけるためには、極論を言えば結婚して子どもを産むことが一番の対処法だと思うが、現状に書かれているとおり、結婚に対する価値観が様々になってきていると感じている。結婚をして家庭を持つことが当たり前だという風潮を作ることが大切だと私は思っている。

また、「子育ての支援」について、地域の中でどのように関わっていけばよいか、地域の中での役割を考えることが重要になってきていると思う。

委 員 「生涯学習の推進」について、生涯学習の推進はとても重要な取組であり、地域や国レベルの課題を踏まえて自分たちが何をしなければならぬのかを学ぶ必要があるため、取組の中に、社会教育を大きく掲げていただきたい。

生涯学習というと、自分の余暇を楽しむものと捉えられがちであるが、社会情勢を踏まえてどのような対策をしていかなければならないかということ。「社会教育」という言葉で計画に盛り込んでいただきたい。

また、19ページ「地域づくり活動の充実」について、地域によって状況は異なるが、各自治会や地域団体の体制の弱さが顕著になってきている。皆さんの地域の状況はどうか。

委 員 現状から分析した課題を解決することが大目標に近づく道ということだと分かるので、施策の個別ページの構成はよいと思う。

また、できないことを一生懸命やるよりも、できていることを伸ばしていったほうが全体としては伸びると思うので、ある程度できている現状も記載した

ほうがよいと思う。

課題の項目として「創出、導入、確保、推進、醸成、促進、確立」という言葉が使われているものは、現状であまりできていないことに対する課題であると思うし、「解消、整備、強化、維持、改善、充実、育成、支援、管理、防止、振興」という言葉が使われているものは、現状である程度までできていて少し変えればもっと良くなる課題であると思う。この2種類に分けて数を数えてみると、ほぼ同数であり、計画を作る全体的な視点としては合っていると考えるが、個々の内容については検討が必要である。

委員 本日の会議には間に合わなかったようだが、根拠データを示していただくと考えるベースとなる。

6 ページ「結婚と出産の支援」の課題解決に必要な施策について、様々な不安や悩みを抱えた人を対象にした相談体制が担当課によって細分化されないよう、ワンストップでの相談体制を構築してほしい。そのためには結婚、出産から始まり、子育て、教育、住宅、医療の問題などに対し、利用できる各種制度が一覧で分かるような示し方も必要になってくる。利用する側の状況に見合った親切的な相談体制を整えてほしい。

また、7 ページ「子育ての支援」について、夫婦が揃って育てられる子育てと、様々な事情によるひとり親での子育てでは、状況が全く異なる。経済的な問題などにも配慮した施策に取り組む必要がある。さらには、結婚しないことを選択した単身者が退職後に1人でどうやって生きていくのかという問題もあるので、単身者への施策も忘れてはならない。

13 ページ「多様な社会参加の促進」に「社会参加の確保と体制の整備」という課題があるが、何かをやりたいと思ったときに人手が足りない、技術を持った人がいないという理由で諦めてしまうことや目標まで到達できないことがある。その際に、人集めをする仕組みがあってもよい。社会参加となると何かを継続的に行わなくてはいけない印象を受けるが、1回限りで参加し、一関市の魅力や課題を見てもらうことで、市外の方が一関市で仕事してみようとか、住んでみようと思うきっかけになるかもしれない。

14 ページ「つながる機能の整備」の「交通公共ネットワークの整備」という課題の中に、一ノ関駅周辺と各地域を結ぶ交通ネットワーク維持が必要だという記載がある。一関市の中心部である一ノ関駅の周辺と他の地域を結ぶことはもちろん大事であるが、高齢者が増えている状況下では、それぞれの地域内の交通網の整備という視点も必要である。高齢者は移動の手段がなくなると外に

出る機会が少なくなり、フレイル状態に陥りやすくなるので是非検討してほしい。

7ページ「子育ての支援」について、共働きで仕事の都合がつかず、こどもの面倒を見る人がいなくなった場合に、保育園や幼稚園に入っていなくても短期的に利用できる施設整備などの支援が、子育てのしやすさにつながってくると思う。さらに、祖父母が遠くに住んでいる場合に、こどもの面倒を見るための交通費に対する支援があると非常に嬉しい。

また、伝統文化の継承に関連して、地域で行われてきた伝統芸能や祭りの継続が難しくなっている。金銭的な支援でいえば、クラウドファンディングなどの手法があるが、やはり必要なのは人だと思う。自分が住んでいる地域ではない地域の伝統芸能や祭りに参加したい、サポートしたいという人たちが参加しやすいような仕組みづくりが大切。市外の人に参加することで、移住にもつながると考える。

6ページ「結婚と出産の支援」の中に出会いの場の創出という言葉があったが、出会いの場は婚活事業の場だけではない。同窓会やイベントなど日々の中にある出会いの場のほうが圧倒的に多いと思う。決まりきった婚活事業ではなく祭りやイベントの開催を支援することが、出会いの場の創出につながっていく。

委員 施策体系図の「01 結婚と出産の支援」のところだけに「重点」と書かれているのはなぜか。

事務局 これは例示であり、重点プロジェクトをどのように設定するかは今後検討していく。

委員 私は新型コロナウイルス感染症が流行する前まで、毎月音楽イベントを企画していたが、参加者や関係者の中で4組結婚した。やはり同じ場所で何かをやり続けていると、若者が集まり、イベント時以外でも会うようになって結婚につながる場合が多い。

18ページ「まちにつながる人の拡大」は重点プロジェクトだと思っている。例えば音楽の分野は、個人で活動していることが多いので、資金面で苦勞している人が多い。そういった人たちが市の支援を受けて、人が集まる機会をつくれば、市外からも人が集まり、関係人口の増加につながると思う。

委員 6ページ「結婚と出産の支援」について、結婚を考えるに当たって、夫婦別姓の問題は大きいと思う。姓を変えることによる各種手続きが面倒で結婚しない人も少なくないと思う。

7ページ「子育ての支援」では、子育てに関する協力者や相談相手がいない保護者が増えているという現状があり、さらに15ページ「暮らす機能の整備」では、子育て世帯から老朽化した公園の遊具の更新を求める声が増えているという現状がある。子育て中の人にとっては、公園に行って話をするような機会が大事だと思うが、老朽化により公園の遊具が使えない場所が多々あるという話を聞くので、子育てに優しいまちを謳う一関市としては、公園の整備が重要であると考えます。

また、花泉地域にあるプールは現在使えなくなっており、会議などの場で要望を出しても、状況が変わらない。施設が使えないのであれば、代替案を出すなど全体的な視点で施策を進めていただきたい。

先ほど他の委員が、幼稚園や保育園に入っていなくても短期的に預けられる施設があれば良いと話していたが、一関市では「こども誰でも通園制度」を始める方向で進めている。こども1人当たり月10時間と短いので、利用できる時間を増やす取組も必要だと思う。

委員 24ページ「商業、観光業の振興」に冬場の観光資源が少ないという現状が記載されており、他のページにも地域の魅力的な観光資源としての見せ方が弱いなどの現状が書かれている。さらに、9ページ「生涯学習の推進」では後継者不足により民俗芸能の維持が難しくなっているという現状があるので、民俗芸能を観光客に披露する形で冬場の観光資源としてはどうか。様々な人に披露する機会があることは、民俗芸能活動を行っている人のモチベーションにもつながると思う。

委員 「大切なひととの未来を育むまち」という大目標の下に結婚、出産、子育てに関する中目標の記載があるのは問題があると感じる。結婚を望まない人やパートナーがいても子どもを持たないという選択をしている夫婦もいるので、そういった人たちは一関市で大切な人と未来を育むことはできないのかという捉え方をされる可能性がある。

また、6ページ「結婚と出産の支援」と7ページ「子育ての支援」の個別計画が一関市こども計画だけとなっているが、男女共同参画や生涯学習の分野など他にも関連する個別計画があると思うので、横断的な視点で見る必要がある。

8ページ「学びの場の整備」に、幼稚園という記載はあるが幼児教育が含まれていない。認定こども園法の改正や子ども・子育て支援法が成立してからは、状況が変わってきている。幼保小の架け橋期のプログラムの実施は文部科学省の政策で決まっていることなので、幼児教育を「学びの場の整備」に入れるこ

とが適切と考える。

「医療、福祉体制の充実」に障がい者に関する記載がない。授産施設の厳しい運営状況などがあるので障がい者に関する記載を加えてほしい。

委員 「子育ての支援」の課題に、地域で子育てを支える意識の醸成と体制づくりとある。地域で育てるのは大事であるが、地域と一括りで言うと誰がやるのか曖昧になるので、それよりも頑張っでこどもたちを支えようとしている子育て支援組織などを含めて、みんなで支え合っでいこうという意識を持ったほうがよい。

また、19ページ「地域づくり活動の充実」の現状にあるとおり、自治会長や区長の仕事は大変だと感じているところであるが、自治会長や区長の本当の力量は災害時に発揮されると思う。自治会長がいるところといないところでは、被災者へのケアの度合いが異なると聞いているので、自治会などの基盤の強化を進めるためにも、報酬などの支援も含めながら、負担の軽減を考えてほしい。

委員 作成の視点などは、事務局の考え方でよいと思う。

8ページ「学びの場の整備」について、私が所属する学校の外国人児童数は10名を超えている。英語も日本語も通じないので、教師が自分のスマートフォンを使いながら基本的な言葉を伝えている。大変な状況ではあるが、大切にしたいと考えているのは、これからの学校は緩さを求めていかなければならないということである。外国人の児童に翌日の持ち物を伝えても、親も外国人であるため完璧に伝わらないことが多い。完璧を求めるのではなく、緩さを求めていかないとすべてのこどもが輝くという状態は作れない。

これを一関市全体で考えると、結婚をしなければならない、出産をしなければならないという価値観を浸透させようというのが透けて見えたときに、近寄りたくないと感じてしまうのではないか。

また、自分は幸せになりたいが、世の中のために自分ができることはありますかという内容の調査結果が日本は各国に比べて低い。自分は楽しく暮らしたいけれども、自分はできれば苦勞したり、世の中のために頑張ったりしたくないと考えている人が多くなっできているのではないか。

こどもたちの努力や良いところを認め、こどもたちが輝いていけるような学校づくりを目指し、自分のことは自分で責任を取ることが出来る人を育て、社会に出たときに、市や国に頼るのではなく、自分ができることは何か考えることが大事だと考えている。

委員 19ページ「地域づくり活動の充実」の現状に、一部の市民センターが指定管

理を受けていないという記載があるが、これは必要ないと思う。市民センターの指定管理は市の方針、現状であり、総合計画に掲載する現状ではないのではないか。それよりも、生涯学習や地域づくりの拠点としての市民センターをどのように充実させていくかということをもさらに明確に記載したほうがよい。

また、自治会などの活動基盤の強化という課題の中に、活動基盤としての適正規模の確保が必要と記載されているが、自治会は任意の組織であるので、各地域において少子高齢化により活動できないという状況があるのであれば、それは自分たちで検討する部分であると思う。市が自治会組織の再編に口を出してはいけないと思う。

9 ページ「生涯学習の推進」について、市民センターでは地域の要望を聴きながら講座等を開催し、大人は子どもたちがやりたいことは何かの把握に努めている。子どもたちがやりたいことに応えて、市民センターが講座を開催すると、最初は少人数であっても徐々に広がっていき、市民センターが地域の核の一つとなり、地域協働体としての活動が評価されていくと感じている。

自治会長の報酬については、自治会の中で決めることである。お金のために活動しているわけではないが、地域のリーダー育成にもつながっており、そのような姿を見せれば、活動に対する支援が広がると思う。

委員 17ページ「安全な体制の整備」の課題の一つである日常における安全の確保の内容が、交通安全と防犯だけであるが、防災教育という視点も必要だと思う。ちょっとした怪我などに対応できず、救急要請をするケースもあるので、応急処置法などが市民に普及されれば、救急の要請件数も減る。

また、大船渡市の山火事の際もそうだったが、今までの習慣で大丈夫だと思ってやってきたことが大きな災害に発展することがあるので、安心して暮らすためには防災に関する基礎知識を普及していく必要がある。

委員 分野横断的な視点での計画策定であるので、様々なところに散りばめられている障がい者やLGBTQなどのワードについて、どこに重点を置くのか整理したほうがよい。

また、課題の欄が1マスしかないページがあるのは残念である。

委員 全体を見ていて、すべてを網羅していると思うが、一関の特色がどこなのかわからない。

各項目間で微妙に噛み合っていないところがあるので調整をお願いしたい。

また、企業が事業を拡大する際の支援という視点が見つけられなかった。

委員 24ページ「商業、観光業の振興」の現状認識の一つとして、ネット通販など

生活様式の変化、消費者の動向の変化を加えていただきたい。

また、課題の中に、事業者間の一体感の醸成が必要という記載があるが、意味が伝わらないので修正をお願いしたい。

25ページ「工業の振興」の目指す姿について、「継続的な工業が展開される」という表現が伝わりにくいので、ここも検討していただきたい。さらに、工業の分野でも人材確保の視点は必要であると思うので記載をお願いしたい。

委員 16ページ「医療、福祉体制の充実」について、目指す姿には医療や福祉のことが全体的に書かれているが、施策の方向性にもう少し全体的な視点が必要だと思う。例えば、福祉の範囲は広いので、高齢者や障がい者も含めた市民全員が安全、安心に感じるまちという視点でまとめればよいと思う。

委員 21ページ「脱炭素社会の実現」を考えたときに、20ページ「まちの景観の保全」、22ページ「自然と資源の保全」、18ページ「まちにつながるひとの拡大」、23ページ「農林業の振興」など様々な分野に関わるので、それを網羅できるようなまちになったらよいと思う。

物価高などに意識が向いているが、もう一度暮らしやすさを感じるまちづくりを皆さんの意見を聴きながらまとめていければよいまちになるはずである。

委員 食の視点が入っていない気がする。

また、全体的な話となるが、ストーリーを考えて、みんなの幸せにつながるような施策を考えてほしい。

会長 将来像の実現に向けてストーリー化していく作業になると思う。

12 担当課 市長公室政策企画課